

第1学年 音楽科学習指導案

日時 平成23年9月5日(月) 5時間目
学級 1年1、2組(男子20名女子17名 計37名)
授業者 教諭 山口 由華

1 題材名

「混声合唱の響き」～表現の工夫～

教材名 混声三部合唱「COSMOS」 ミマス 作詞・作曲 富澤 裕 編曲

2 題材について

本題材は、中学校学習指導要領「音楽」の

A 表現

ア. 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。

イ. 曲種に応じた発声により、言葉の特徴を生かして歌うこと。

ウ. 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

[共通事項] (1) 音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱にかかわる学習内容である。

本教材は生徒自身が選んだ合唱コンクールの自由曲である。これまでに学習してきたことを生かしながら、生徒自身で表現方法を深めていくのに適した曲であり、新学習指導要領の第1学年の目標に迫ることができると考え選曲した。

特に学習指導要領のウ.「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」をふまえて、自分の声部と他声部とのかかわりを感じ取らせること、そして、それによって生まれる全体の響きを感じながら、自分の担当する声部を正しく表現する力を育てることがねらいである。

また「COSMOS」の学習を通して、「音色、強弱、旋律」などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、それらのはたらきを意識しながら演奏効果を高められる技能を育てたい。

3 題材の設定理由

(1) 教材観

「COSMOS」はユニゾンからハーモニーへの変化、他声部とのかけあい、転調など、表現の工夫がしやすく演奏効果をあげることができる合唱曲であり、生徒が「自分たちで合唱を創り上げられた」という達成感を得られるのに適した合唱曲である。

この曲における声部の役割とは、主旋律を奏で顔としての役割を持つ声部、内声で味わいを持たせる声部、低音部で支える声部、オブリガードとして主旋律を飾る声部、音楽の流れをつくる声部、フレーズのつなぎ役をする声部などの役割が考えられる。

それら声部の役割を知覚、感受し、自分の役割を意識して表現できる力を育てていきたい。

(2) 生徒観

他を思いやれる素直で優しい生徒が多い。音楽の授業でも、教師やリーダーの指示に従い、協力して取り組み課題を解決しようと真剣に学習することができる。

これまでの歌唱表現の授業では、「自分のイメージを、工夫した音にして表現しよう」や、「自分のしたい表現に近づけるには、どのように歌唱表現したらよいか」などの学習をし、工夫することにより豊かな表現ができるということを学んだ。しかし合唱においては、自分と同じパートの他の声や、他パートの声を聴きながら歌い、更に良いものにしよう意識して取り組む生徒が多くない。本題材では他と合わせて歌うことの大切さや、響きが増すことにより、歌い合わせる楽しさを味わわせたい。

(3) 指導観

1学期末の全校合唱で混声三部合唱曲「HEIWA の鐘」を歌っているが、10月9日の校内合唱コンクールが学年合唱を発表する初めての場となる。今回の合唱で、1年生だけの力で歌い合わせ、響きの豊かさを感じられる喜びを味わうことにより、今後の合唱活動へのさらなる意欲付けとなると考え本題材を設定した。

それと共に、他と協調しながら一つの合唱曲をみんなでつくりあげていく楽しさや喜びを味わわせていきたい。

4 題材の目標

- (1) 声部の役割と全体の響きを感じ取り、音と音とのかかわり合いによる曲想の変化に関心を持ち、自分で工夫して歌唱表現をすることができる。
- (2) 自分たちの合唱の課題を把握し、更に合唱を高めようと積極的に取り組む気持ちを持つことができる。

5 指導計画

時間	おもな学習内容	学習目標	指導の重点
第1 2 時	・ 範唱や自分、他の声を聴き、旋律を正しく歌えるようにパート練習をする。	・ 旋律の構成を知り、各声部の役割や全体の響きを感じ取り、自分の旋律を歌うことができる。	・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 表現の技能
第3 時	・ 自分の声を、自分と同じパートの他の声に合わせて歌う。	・ 自分のパートの旋律を正しく、自信を持って歌うことができる。	・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 表現の技能
第4 5 時 (本時 5/8) 6 時	・ 自分の声部の役割を分かって、歌うことができる。 ・ 自分の声と他パートの声との響きを感じて歌う。 ・ 歌詞の内容や曲想、強弱、転調の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫する。	・ 自分たちの合唱の課題を把握し、音楽の構成要素(音色・リズム・旋律・和声・テクスチュア、強弱、形式、構成)や表現要素(速度・強弱)などを手がかりに曲を創る。	・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 音楽的な感受や表現の工夫 ・ 表現の技能
第7 8 時	・ 曲全体の構成を把握して表現を工夫する。	・ 曲全体の構成を把握して表現を工夫し、まとめの合唱をする。	・ 音楽への関心・意欲・態度 ・ 音楽的な感受や表現の工夫 ・ 表現の技能

6 本時の指導

(1) 本時の目標

声部の役割と全体の響きを感じ取り、工夫しようと意欲的に取り組む。・(音楽への関心・意欲・態度)
 声部の役割と全体の響きを感じ取り、表現を工夫する。・・・・・(音楽的な感受や表現の工夫)
 声部の役割と全体の響きを感じ取り、工夫して歌唱表現ができたか。・・(表現の技能)

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価の観点	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する生徒への支援)
音楽への関心・意欲・態度	声部の役割と全体の響きについて関心を持ち、役割や響きについて感じ取ったことを積極的に表現している。	声部の役割と全体の響きについて関心を持ち、感じ取っている様子が見える。	声部の役割や全体の響きを感じ取れるよう、他の意見を参考にできるよう声掛けをする。
音楽的な感受や表現の工夫	声部の役割を理解し、工夫すべき点や工夫の仕方についての的確に指摘する。	声部の役割を理解し、歌唱表現の工夫を指摘する。	他の意見でよいと思った物を挙げさせ、その工夫に取り組みさせるようにする。
表現の技能	声部の役割を理解し、役割を意識して工夫しながら歌唱する。	声部の役割を理解し、工夫しながら歌唱する。	他が工夫して歌っている点を教師が気付かせ、その工夫に取り組みさせるようにする。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)分	1 「COSMOS」のユニゾン部分を歌う。 2 前時に録音した自分の合唱の合唱と先輩の合唱を聴き比べる。	1 腹式呼吸や発声を意識させながら歌い、合唱に取り組み姿勢と雰囲気をつくる。 2 録音した自分の合唱と先輩の合唱を聴き比べ、よりの部分を工夫して歌えよいかを考える。	1 よい点をほめながら歌わせる。 2 自分のパートの歌い方に着目させ、学習シートに違いを書かせる。 < 関意態 > 学習シートに違いを書き出すことができたか。
	学習課題 自分のパートの役割を感じ取り、更に響きが増す混声三部合唱をつくろう		
展開 (35)分	3 本時の学習課題を理解する。 4 聴取して考えたことを交流し合い、表現の工夫を考える。	3 本時の学習内容を理解し、課題解決しようという気持ちをもつ。 4 自分たちの合唱において、より響きのあがる合唱をつくるために、各パートがどのようかを工夫をして歌えよいかを確認する。	3 課題を板書し、課題を生徒から出た意見を見せ体うな場とする。 4 板書した意見を踏まえて、生徒の意見から提示する。 (例) (1) 「一人ひとり各自の旋律を正しく分歌しよう」 (2) 「自分のパートの人の声を聴きながら」 (3) 「きれいな響きもハモリも」 (4) 「声で歌う」の「ラン」 (5) 「バス」の「うけ」で聴感なく、が響きを感じて歌う。 5 課題を解決させるために、相互に聴かせ、練習しあう。 < 技能 > 表現の工夫し、より豊かな響きで歌うことができたか。
	5 曲の練習をし、表現を深める。	5 4で決めた練習方法で、教師主導で練習し、自分の声部の役割を理解しながら工夫して歌う。 (1) 「百億年の歴史～みんな」を練習する。 ア.各声部を除いて歌うことで、その声部の役割を考える。 (2) 互いの合唱を聴きながら、各声部の役割に気付く。 (3) 互いの合唱を聴きながら、どのように工夫すればよいかを考え歌う。 ア.男声とピアノ伴奏の左手の旋律が同じ動きをしていて、合唱を支えていることであることに気付き工夫して歌う。 イ.アルトが入ることによりハーモニーが豊かになっていることに気付き工夫して歌う。 ウ.ソプラノが主旋律であり、合唱の顔であることに気付く。また合唱の顔がどのような歌い方をすればよいかを考え、工夫して歌う。 (3) 「夏の草原～君を感じる」のユニゾン ア.声をそろえて歌うと響きが増すことに気付き、2部合唱や3部合唱に生かすことができる。	5 課題を解決させるために、相互に聴かせ、練習しあう。 < 技能 > 表現の工夫し、より豊かな響きで歌うことができたか。
	6 まとめの合唱。	6 練習後の自分たちの合唱を聴き、声部の役割を生かして歌い、響きがよくなったか考える。	6 学習シートに書かせる。 < 感受・工夫 > 各パートの役割を聞き取り、混声三部合唱の響きを感じたか。
終結 (5)分	7 成果と課題の把握。	7 本時の成果やこれからの課題について感じたことや考えたことなどを発表する。	7 教師からも全体を通しての意欲を向上した時へ持たせ、持ちかえり用紙を集める。
	8 授業のふりかえり。	8 ふりかえり用紙に書き、本時の取り組みについて自己評価する。	8 ふりかえり用紙を集める。

(5) 評価

声部の役割と全体の響きを感じ取り、意欲的に取り組めたか。
 声部の役割と全体の響きを感じ取り、考えを持って表現を工夫し、それを知覚・感受できたか。
 声部の役割と全体の響きを感じ取り、工夫して歌唱表現ができたか。

夏の草原に 銀河は高く歌う
 胸に手をあてて 風を感じる
 君の温もりは 宇宙が燃えていた
 遠い時代のなごり 君は宇宙
 百億年の歴史が
 今も身体に流れてる
 光の声が高ききこえる
 君も星だよ みんなみんな
 時の流れに 生まれたものなら
 ひとり残らず 幸せになれるはず
 みんな生命を燃やすんだ
 星のように 虫のように
 光の声が高ききこえる
 僕らはひとつ みんなみんな
 光の声が高ききこえる
 君も星だよ みんなみんな

Moderato ♩ = ca.84

なつのく さ は たか ぎんがは うたう
 なつのく さ は たか ぎんがは うたう
 らに らに らに らに
 らに らに らに らに

きみのぬくもりは
 のぬくもりは
 きみのぬくもりは
 とおいじだいのなごり
 とおいじだいのなごり
 とおいじだいのなごり
 かぜをか
 かぜをか
 かぜをか
 ちゅうが
 ちゅうが
 ちゅうが
 きみはう
 きみはう
 きみはう
 ひやく
 ひやく
 ひやく

Ah
Ah

も
うまれた
んに
が
のきとき ※

は
るなれ
せあし
わせなれ
せあし

お
ぐねんの
れき し が け
だに な が けて

る ひ 一かりの こ 一えが そら たかき える

き だよ し だよ し だよ し だよ

() は高い声が出ない人のみ。

※ () 内は休みでもよい。

ず みん な ー い の ち を も や す ン だ ほ し の よ う に ほ た

mf mf

る ー の よ う に ひ ー かり の こ ー え が そ

f f

ら た か く き こ ー え る ほ ー き く み

ら た か く き こ ー え る ほ ー き

ら も ー ら も ー ら も

ひ し と だ よ

ひ し と だ よ

ひ し と だ よ

1. 2. 1. 2.

みん な みん な

みん な みん な

ひ ー かり の

ひ ー かり の

mf mf

こ ー え が そ ら た か く き こ ー え る き ー み も ほ し だ よ

こ ー え が そ ら た か く き こ ー え る き ー み も ほ し だ よ

f f

みん な みん な

みん な みん な

mp